

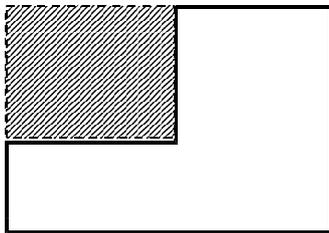
## 4 学年 面積「複合図形」の学習から

### 1. 授業について

(2) どうすれば2つの方法を子どもたちが導き出せるか？

- 2つの方法とは
- 2つの長方形に分割して求める
  - 長方形を補充した形から補充したものを引いて求める

この考え方をなかなか子どもたちは導き出せない。



そこで、次の場合どう指導していくか

2つの方式が出てきた場合 (指導案A)

2つの方式が出てこない場合どうするか

この問題はそのままにして、問題2で考えさせる。(指導案B)

出てくるのが望ましいので、何らかの手だてを加える。



最初の図形の提示方法を変えてはどうか？(導入の工夫)

「面積」単元における数学的な考え方

重ね合わせる。	操作の考え，秩序の考え
単位面積でしきつめる。	単位の考え
面積は形を変えても大きさは変わらない。	操作の考え
単位面積をもとにして考える。	単位の考え
縦と横の長さが分かれば長方形の面積を求めることができる。	関数的な考え，式についての考え
公式を利用する。	単位の考え，関数的な考え，式についての考え

補助線を引き，2つの長方形に分けた形を考える。	基本的性質の考え，操作の考え，関数的な考え，式についての考え
-------------------------	--------------------------------

## 2. 実際の授業から

(1) 9月24日実施の指導案より

### 1 単元名 面積

### 2 単元について

児童は、第1学年・第2学年の時に色板並べや図形の敷きつめ等の具体物の操作を通して、広さの概念の素地を養う学習を積んできている。また、量の概念としては、長さ、液量、時間、重さについて、直接比較、間接比較、任意単位、普遍単位の段階を経て、測定の仕方を学習してきた。本単元では、これまでの学習をふまえて、面積の概念、長方形や正方形の面積を求める公式の意味の理解、面積を表す各種の単位の理解について学習を進める。基本単位の必要性、有用性を認識させながら、面積の普遍単位「 $\text{cm}^2$ 」の理解と、これより大きい「 $\text{m}^2$ 、 $\text{km}^2$ 」の単位とそれらの相互関係の理解を図る。

児童は、広さについては漠然とした感覚で広い、狭いを判断している。今まで、「長さ」や「かさ」、「質量」といった学習では、様々な測定を経験しているが、普遍単位の重要性まで十分認識しているとはいえない。面積の単位について知っている児童はなく、陣取りゲーム等を通して広さ比べをした経験もない。面積については、周りの長さで決まると思っている児童が多い。

7人と少人数の学級であるため、多様な考え方が出にくい傾向にある。自力解決したことは、進んで発表しようとする事ができるが、相手の立場に立って分かりやすく説明することは十分できているとはいえない。

広さ比べを通しての面積の学習では、直接比較、間接比較、任意単位による比較、普遍単位による比較の4つの段階を丁寧に扱いたい。

本時では、自力解決の場面で、進んで他の方法にも挑戦し、自らが多様な考えが出るよう時間を十分とりたい。友達との意見交流では、その方法のよさや考え方の共通点を話し合わせながら既習の長方形や正方形に分割等を行うことによって公式を用いて面積を求めることに気づかせたい。子どもたちから補充引き去りの方法が出てこない場合は、教師から方法を提示するのではなく、その必要性が感じられる問題において考えさせるように本時の学習指導案をA案、B案と2種類用意した。

### 3 単元の目標

面積について単位や測定の意味を知り、長方形、正方形の面積を求める公式を作り出す。

長方形、正方形の面積の公式を用いて、長方形や正方形、複合図形の面積を求める。

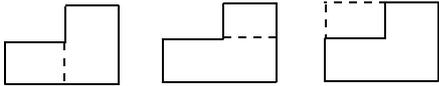
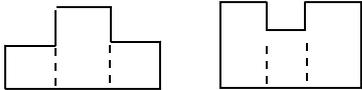
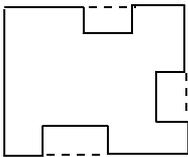
面積の単位「 $\text{cm}^2$ 、 $\text{m}^2$ 、 $\text{km}^2$ 」を知り、それらの関係を調べる。

求積活動を通して、面積の感覚を豊かにする。

### 4 学習指導計画（全8時間）

次	学 習 内 容	評 価 の 観 点	時 間
1	<b>課題設定</b> 学習計画 <b>面積</b> 広さの単位「 $\text{cm}^2$ 」を知る。 正方形・長方形の面積の公式を知る。 公式を利用する。	広さの表し方について関心をもつ。  面積の意味を知り、普遍単位を用いて長方形や正方形の面積を求めることができる。	4時間
2	<b>大きな面積</b> 広さの単位「 $\text{m}^2$ 」を知る。 $1\text{m}^2$ と $1\text{cm}^2$ の関係を知る。 面積の単位 $1\text{km}^2$ と $1\text{m}^2$ の関係を調べる。	$1\text{m}^2$ や $1\text{km}^2$ のような大きな面積について理解する。	3時間
3	<b>面積の求め方のくふう</b> 面積のいろいろな求め方を考える。 <b>算数のまど</b>	L字型の面積を分割などによって求めることができる。	1時間 (本時) 1時間

(2) 授業記録から

児 童 の 活 動	教 師 の 活 動
<p>1. 既習の長方形や正方形の面積を求める。</p> <p>長方形は、たて×横 正方形は、1辺×1辺</p> <p>2. 複合図形を求める。 見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ できる。</li> <li>・ マス目があるとできそうだ。</li> </ul> <p>個別作業</p> <p>3. 考え方を発表する。 3つの考え方を黒板で説明する。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2つのほうが簡単だ。</li> </ul> <p>4. 練習問題をする。 これは絶対できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下のように分けると、4つの式になる。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3つの式でできる方法もある。</li> </ul>  <p>5. 発展を考える。 こんなのがいい</p> 	<p>フラッシュカードを用いて、図形や言葉から面積を求めさせる。</p> <p>正方形と、長方形の面積の公式を確認させる。</p> <p>大きい長方形から缺を使って小さい長方形を切り取り、残った図形の面積を求めるようにさせる。 マス目は、数が多くなるとたいへんなことから、公式を使って求めることはできないかと学習課題を提示する。</p> <p>何か所測るとできるか、印を付けて考え方を残しておこう。</p> <p>(机間指導)</p> <p>分割法から説明させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 別の児童を指名し、説明させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3つの長方形に分ける方法はどうか問いかける。</li> </ul> <p>PC (パーソナルコンピュータ) で、説明を補充する。(Power Point を使用)</p> <p>いくつの式でできるか考えさせる。</p> <p>図形によっては、考え方が簡単になるものがある。</p> <p>PC で、説明を補充する。</p> <p>これで、面積の学習が終わるが、ほかにどんなものがしたいか？</p> <p>また、いろいろな問題をしてみよう。</p>

### 3. 授業討議から

#### [授業者の反省]

- ・ 本学級の児童は、計算はよくできるが、思考を要する場面で、2名の児童が個別指導が必要である。
- ・ 多様な考え方で解くようにと指示すると、3分割の考え方も出てくる。本時では、2分割と3分割の両方で解いた児童は、2分割のよさが分かっていたようだ。
- ・ 練習問題は思ったより時間がかかった。イの問題は、補充引き去りの考えが出にくかった。本時扱ったL字型の図形の求積とつないで考えることが十分できなかった。
- ・ 以前に(H元年実施)授業のまとめの段階でパソコンを使って説明をすると効果があったので、今回も使用してみた。

#### [討議]

- Q1 単元の中の「大きな面積」では、 $1\text{ m}^2$ は $1\text{ cm}^2$ がいくつあるか体感させる活動をしたか？  
実際に $1\text{ m}^2$ を作ったか？
- A 1辺が10cmの正方形(100マス)がたてに10列で、1000。そして1000が横に10列で10000と学習した。7人全員が実際に新聞紙で $1\text{ m}^2$ を作り、廊下の鏡は2枚分、教室の黒板は4枚分などと作業させていった。
- Q2 Power Pointで図形を作るのはおもしろい。イの図形を動かすと凸からL字型になる。アについても同じであるが、その意図は？
- A 補充引き去りの考えが出にくいと思い、イのみを作っていた。
- Q3 数学的な考え方ということから考えると、本時であれば考えの交流が大切だったのでは？交流させると、いろいろな発見があったのでは？本時では、マスをかいた児童をどう取り扱うか。交流させると、いろいろな発見があったのでは？子どもたちの交流があまりなかったように思うが、どのように高め合いを期待していたのか？
- A 授業の最初の方眼の考えを認めた。「公式は使えない、でも方眼ならできる」という考えから脱却できるように、方眼を使うと辺の長さが大きい場合に大変だという提示をしていたが、十分に意図は伝わらなかった児童がいた。交流は十分ではなかった。練り上げの工夫が足りなかった。
- Q4 評価が1時間で4つあるが、どのように評価するのか。
- A 7人なのでできるだけ評価していきたい。全ての評価を全員について評価できないこともある。そう言う場合は単元を通してみていく必要がある。
- ・ 見通しを持つ段階で、「長方形」を意識させたらよかったのではないかな。
  - ・ 3つに分ける方法と2つに分ける方法とどっちがいいのかを考えさせ、2つに分けるよさを見つけさせるとよい。(簡単にできる)
  - ・ 交流については、子どもが発表する、数値と図を関連づけながら発表する、1人の子どもを他の子どもが説明するとよい。
  - ・ 子どもの言葉から「簡単」「便利」という話し合いの場があればいいと思う。7人は大変。差があるので、丁寧に。遅れがちの子どもには、切り取るという活動を取り入れてもいいのではないかな。どんどん解きたい子どもには、たくさん問題をさせていくことも可能では。
  - ・ 練習問題では、「どこを測ったらよいか」「印を付けたらよいか」を見通すことも大切。また、考え方にネーミングを付けてもよかったと思う。
  - ・ 練習問題で、簡単(合理的、正確)にできる方法を交流で見つけさせるのもおもしろいと思う。発表の数ではなく、質的な高まりがあれば交流としては成功。
  - ・ 子どもたちは、考えをしっかりと持って臨んでいた。その子にとって一番わかりやすい方法で解いていた。細やかな支援もあった。
  - ・ Power Pointは、見やすくわかりやすい。
  - ・ しつとりと落ち着いた授業だった。  
前半...「公式をうまく使って」ということでは、公式の便利さが分かっている子は、一生懸命解いていた。  
後半...「簡単に解こう」という必要感をもっていた。

#### [指導1]

- ・ 子どもたちはしっかりと考えていた。
- ・ 工夫があった。(Power Point, 切ること)

- ・ ねらいの「簡単な方法で求めさせたい」という気持ちがよく表れていた。
- ・ 最初は、「どんな方法でも面積を求められたらいい。」ということで、3分割や方眼を使うの考えを出してもよいのではないかと。子どもたちに「大変やで。」ということに気付かせ、2分割のよさにつなげていくとよいのではないかと。
- ・ 学習活動3では、「3つの式と2つの式のどっちがいい。」と、簡単な方法のよさに気付かせていけばよかった。安易に流れすぎたのでは？山場だったのではないかと。
- ・ 評価規準は、実際に生かせるもので、どんな方法で、どこを見るのかが大切である。

【指導2】

- ・ ゆとりの中で、基礎・基本、楽しさ、立体的な活動を。
- ・ いろいろな問題を解きたいという意欲を持った児童もいた。
- ・ つぎの授業に生かされる評価があればそれで十分である。

4. 授業を通して

子どもたち相互の交流，練り上げの場を十分保障できない授業となってしまった。しかし，7人が，単元全体を通して意欲的に活動することができた。

# 1 単元名 面積

## 2 単元について

児童は、第1学年・第2学年の時に色板並べや図形の敷きつめ等の具体物の操作を通して、広さの概念の素地を養う学習を積んできている。また、量の概念としては、長さ、液量、時間、重さについて、直接比較、間接比較、任意単位、普遍単位の段階を経て、測定の仕方を学習してきた。本単元では、これまでの学習をふまえて、面積の概念、長方形や正方形の面積を求める公式の意味の理解、面積を表す各種の単位の理解について学習を進める。基本単位の必要性、有用性を認識させながら、面積の普遍単位「 $\text{cm}^2$ 」の理解と、これより大きい「 $\text{m}^2$ 、 $\text{km}^2$ 」の単位とそれらの相互関係の理解を図る。

児童は、広さについては漠然とした感覚で広い、狭いを判断している。今まで、「長さ」や「かさ」、「質量」といった学習では、様々な測定を経験しているが、普遍単位の重要性まで十分認識しているとはいえない。面積の単位について知っている児童はなく、陣取りゲーム等を通して広さ比べをした経験もない。面積については、周りの長さで決まると思っている児童が多い。

7人と少人数の学級であるため、多様な考え方が出にくい傾向にある。自力解決したことは、進んで発表しようとするができるが、相手の立場に立って分かりやすく説明することは十分できているとはいえない。

広さ比べを通しての面積の学習では、直接比較、間接比較、任意単位による比較、普遍単位による比較の4つの段階を丁寧に扱いたい。

本時では、自力解決の場面で、進んで他の方法にも挑戦し、自らが多様な考えが出るよう時間を十分とりたい。友達との意見交流では、その方法のよさや考え方の共通点を話し合わせながら既習の長方形や正方形に分割等を行うことによって公式を用いて面積を求めることに気づかせたい。子どもたちから補充引き去りの方法が出てこない場合は、教師から方法を提示するのではなく、その必要性が感じられる問題において考えさせるように本時の学習指導案をA案、B案と2種類用意した。

## 3 単元の目標

面積について単位や測定の意味を知り、長方形、正方形の面積を求める公式を作り出す。

長方形、正方形の面積の公式を用いて、長方形や正方形、複合図形の面積を求める。

面積の単位「 $\text{cm}^2$ 、 $\text{m}^2$ 、 $\text{km}^2$ 」を知り、それらの関係を調べる。

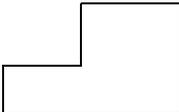
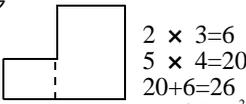
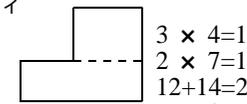
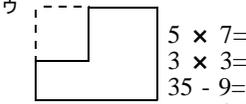
求積活動を通して、面積の感覚を豊かにする。

## 4 学習指導計画（全8時間）

次	学習内容	評価の観点	時間
1	<b>課題設定</b> 学習計画 <b>面積</b> 広さの単位「 $\text{cm}^2$ 」を知る。 正方形・長方形の面積の公式を知る。 公式を利用する。	広さの表し方について関心をもつ。  面積の意味を知り、普遍単位を用いて長方形や正方形の面積を求めることができる。	4時間
2	<b>大きな面積</b> 広さの単位「 $\text{m}^2$ 」を知る。 $1\text{m}^2$ と $1\text{cm}^2$ の関係を調べる。 面積の単位 $1\text{km}^2$ と $\text{m}^2$ の関係を調べる。	$1\text{m}^2$ や $1\text{km}^2$ のような大きな面積について理解する。	3時間
3	<b>面積の求め方のくふう</b> 面積のいろいろな求め方を考える。 <b>算数のまど</b>	L字型の面積を分割などによって求めることができる。	1時間 (本時) 1時間

5 本時の学習指導 (A案)

- (1) 目標  
 複合図形の面積を求めるために、いろいろな解決方法を考えようとして、友達と自分の考えとの共通点を見つけ出したりしようすることができる。  
 複合図形の面積は、いくつかの長方形に分けたり、大きな長方形から小さな長方形を切り取ったりすることで求められることに気づき、長方形や正方形の面積の公式を使って求めることができる。
- (2) 本時の学習指導過程

学習内容および学習活動	児童の意識の流れ	指導上の留意点・教師の支援と評価
<p>1. フラッシュカードで、長方形や正方形の面積の公式を使ってもとめる。</p> <p>2. 次の図のような形の面積を求める。</p> <p>図のような形の面積を求めましょう                  (教科書 p 67 の図形)</p>	<p>長方形や正方形の面積は公式を使えばすぐに求めることができる</p>  <p>(辺の長さは図示しない)</p> <p>公式はそのまま使えない      方眼のマス目の数を読めばできる</p> <p>公式をうまく使って上の図形の面積を計算でもとめよう</p>	<p>これまで学習してきた基本図形の面積の公式を思い出させ、長方形や正方形は2辺の長さが分かれば求められたことを確認する。</p> <p>(評) 意欲をもって課題に取り組もうとしているが。</p> <p>図形が大きくなれば、辺の長さも長くなり、マス目を数えるのは効率が悪いに気づかせる。</p> <p>(評) どの辺の長さを測ればよいかを、求め方に応じて見通しをもてたか。</p>
<p>課題を解決する。</p> <p>一つの方法で求めたら、他の方法はないか考える。</p> <p>3. それぞれの考えを発表する。</p> <p>解決の方法を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>式の説明をする。</li> <li>自分の方法と比較する。</li> </ul> <p>4. 練習問題をやる。</p> <p>5. 学習のまとめをする。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="577 794 869 954"> <p>ア</p>  <p><math>2 \times 3 = 6</math>  <math>5 \times 4 = 20</math>  <math>20 + 6 = 26</math>  <math>26\text{cm}^2</math></p> </div> <div data-bbox="880 794 1171 954"> <p>イ</p>  <p><math>3 \times 4 = 12</math>  <math>2 \times 7 = 14</math>  <math>12 + 14 = 26</math>  <math>26\text{cm}^2</math></p> </div> <div data-bbox="1182 794 1473 954"> <p>ウ</p>  <p><math>5 \times 7 = 35</math>  <math>3 \times 3 = 9</math>  <math>35 - 9 = 26</math>  <math>26\text{cm}^2</math></p> </div> </div> <p>いくつかの長方形に分けてそれをたして考える      大きい長方形から、付け加えた正方形を引く</p> <p>どれも、公式にあてはめて求めることができる      4つの辺の長さを測るとよい</p> <p>次の図形の面積をいろいろな考え方で求めましょう (教科書 p 67 の図形)</p>  <p>2つに分ける方が簡単だ      付け加えて引く方が簡単だ</p> <p>複雑な形でも、今までの公式を使えば面積を求めることができるんだ</p>	<p>速くできた児童には、他の方法を考えさせる。      3分割を考える児童には、2分割とどちらが簡単に気づかせる。      児童の反応を見て、ウの方法に気づいていない場合には、教師の側からは説明しない。      【指導案Bに変更】      補助線を引くと分かりやすいことを机間指導で気づかせる。      どの辺を測って面積を求めたかを、図の中にしるしを付けさせる。      (評) 必要な長さを実際に測って、面積を計算できたか。      分割法のアやイから取り上げる。      式と図を対応させて説明させる。      どの方法も、4つの辺を測って求めたことに気づかせる。</p> <p>練習問題を通して、その図形の面積を求める、より簡単な方法を選ぶことに気づかせる。      (評) 答えが出たら、他の方法も検討して、よりよい方法に気付くことができたか。</p> <p>図形の形に応じて、2つに分ける方法か、付け加えて引く方法を選ぶとよいことに気づかせる。</p> <p>複雑な形でも、既習の長方形や正方形の面積の公式を使って求積できることに気づかせる。</p>

5 本時の学習指導 (B案)

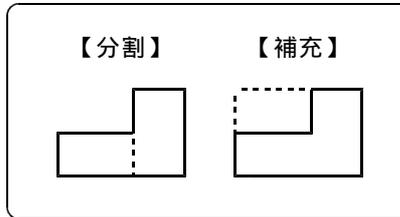
- (1) 目標  
 複合図形の面積を求めるために、いろいろな解決方法を考えようとしたり、友達と自分の考えとの共通点を見つけ出したりしようすることができる。  
 複合図形の面積は、いくつかの長方形に分けたり、大きな長方形から小さな長方形を切り取ったりすることで求められることに気づき、長方形や正方形の面積の公式を使って求めることができる。
- (2) 本時の学習指導過程

学習内容および学習活動	児童の意識の流れ	指導上の留意点・教師の支援と評価
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">公式をうまく使って上の図形の面積を計算でもとめよう</div>	
<p>課題を解決する。</p> <p>一つの方法で求めたら、他の方法はないか考える。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ア</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>イ</p> </div> </div>	<p>(評)どの辺の長さを測ればよいかを、求め方に応じて見通しをもてたか。          早くできた児童には、他の方法を考えさせる。どの辺をはかって面積を求めたかを、図の中にしるしを付けさせる。          補助線を引くと分かりやすいことを机間指導で気づかせる。          どの辺をはかって面積を求めたかを、図の中にしるしを付けさせる。</p>
<p>3. それぞれの考えを発表する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">どれも、公式にあてはめて求めることができる 4つの辺を測るとよい</div>	<p>(評)必要な長さを実際に測って、面積を計算できたか。          分割法のアかイから取り上げる。          どの方法も、4つの辺を測って求めたことに気づかせる。</p>
<p>4. 練習問題をやる。</p>	<p style="text-align: center;">次の図形の面積をいろいろな考え方で求めましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ア</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>イ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>上の図形と同じように2つに考えると、求められる</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>上の図形と同じように考えると3つに分かれるから、付け加えて引くとよさそうだ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>付け加えて引くと3つに分かれる</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> </div> </div>	<p>イの図形を長方形に分割すると、3つになることから、2つにすることはできないかと考えさせ、補充引き去りの方法に気づかせる。</p> <p>練習問題を通して、その図形の面積を求める、より簡単な方法を選ぶことに気づかせる。</p> <p>(評) 答えが出たら、他の方法も検討して、よりよい方法に気付くことができたか。</p> <p>上のL字型はどちらの方法をとってもできるが、の方法は、どちらか一方の考え方がよいことに気づかせる。          上のL字型の問題 イと同様に付け加えて引く方法にも気づかせる。</p>
<p>5. 学習のまとめをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">式が簡単になる方法を選ぶといいんだ</div>	<p>図形の形に応じて、2つに分ける方法を選ぶ方法をするとういことに気づかせる。</p>

## 単元 「面積」(第4学年)

### (1) 提案の概要

L字型をした複合図形の面積の求め方として、どのようにすれば子どもたちが「分割」と「補充」の考えに気付くかについて工夫した実践である。



このねらいに向けては、自力追

究の段階で既に子どもから【補充】の考えが出てくる場合と、そうではない場合の指導案の2つを用意した。子どもたちが図形を動的に見ることができるようにするための支援には、パソコンを使った。

図形のとび出した部分が移動していく画面を見せることで、子どもたちが、凸型もL字型も同じに考えることができるようにするためである。

実際の授業では、「分割」の考えも3人の児童が自ら気付くなど、7人という少人数の学級ではあるが多様な考えが引き出せた。

先述のようにパソコンを使って視覚的に訴える場面を作ったが、その後に、子どもどうしの練り上げをもっと位置付けることが重要であったと考える。

### (2) 討議の概要

- ・ 一般的には、凸型を3つに分けるよりも2つに分ける方が手続きが少ないので簡単であるように思うかもしれない。しかし、一概には言い切れない。計算のしやすさから考えて3つに分割する方が便利だと判断する児童もいるのではないか。
- ・ いろいろと図形を動かすことにより「より簡単に面積を求めるにはどうすればいいかな」を考え出す力が大切である。凹型や凸型の図形も、見方によってはL字型に見ることができることに気付かせたい。コンピュータを使っての支援であったが、最後はそれが念頭操作でできるようにつなげていきたい。
- ・ 「求積できること」ではなく「補充の考えができること」を目標にしており、数学的な考え方の育成につながる授業であったと考える。さらに、補充の考えに気付かせるにあたっては、ほぼ長方形に近い図形を扱うとか、長方形だったものから部分をぬきさって提示するなど、思考の対象とする図形の扱いも工夫することができたのではないかと考える。

### (3) ご指導の概要

授業者も練り上げの活性化を願っていたが、やはり、教師の支援を受けた子どもたちが、こうした図形の見方や測定の考え方を自分たちが見つけたという意識をもたせることが大切である。

本学級は7人であるが、少人数で取り組む児童は自分の習熟の程度に応じた学習ができる。県下の多くの学校で少人数指導の在り方が研究されているが、少人数に分かれた後、それぞれの児童にどんな手だてをしていくかを考えることが重要である。